医療機器めぐり

第九回

処 1階 医療技術部　視能訓練課

名 視野と視野検査

視野と視野検査のお話

視野とは1点を見つめている状態で見える範囲のことを言います。視野検査は病気によってその見える範囲が狭くなっていないかを調べることを目的としています。

検査を必要とする眼の病気は緑内障※、視神経炎、網膜疾患などです。また脳梗塞、脳腫瘍などの命に関わる頭の病気にも用いられることもあり大変重要な検査となっています。

当院では2種類の視野計を使用して病気に合った検査を眼科医の指示のもと視能訓練士が行っています。

今回は視野の測定方法と実際に使用する2種類の検査機器、さらに視野検査を必要とする代表的な病気である緑内障の例を挙げてお話します。

其の一　静的視野検査　HFA-Ⅱ750　ハンフリーフィールドアナライザー(HF)

こちらの検査の特徴はコンピューターによる自動測定で1点を見つめた状態で明るい光や薄暗い光をランダムに点灯し見える範囲を調べます。主に中心付近の視野を測り、早期の異常を検出することに優れています。また、多数のプログラムが存在し検査時間も短縮できることやコンピューターによる解析も可能で長期的な経過観察がしやすいとされています。

検査時間は片眼で10分程度（両眼で20分程度）です。

其の二　動的視野検査　ゴールドマン視野計(GP)

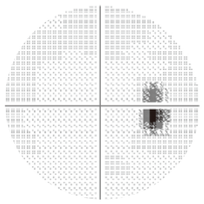
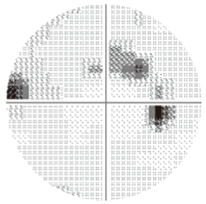
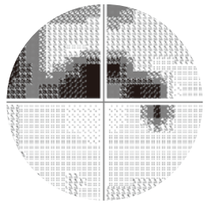
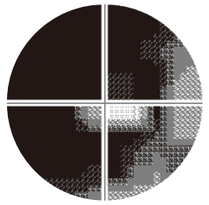
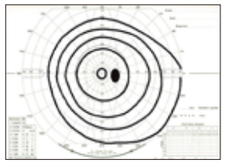
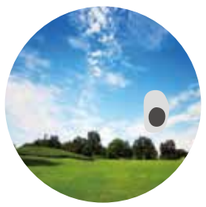
こちらの検査の特徴は視能訓練士による手動測定で1点を見つめた状態で明るさや大きさを変えた光を動かして見える範囲を調べます。前者の検査より視野全体の測定が可能で、広範囲の異常を検出することに優れています。また、視能訓練士が患者さまの状態に合わせて測定できるので検査の苦手な方や小さなお子さまにも使用できます。

検査時間は片眼で15分程度（両眼で30分程度）です。

＜視野の測定方法＞

① **暗室（暗い部屋）で検査**を行います
② **片眼ずつ検査**します（検査しない目をシールで隠します）
③ **検査中は終始中心の１点を見続けます**（きょろきょろすると正しく測れません）
④ **機械から提示された光がわかったらブザーを押します**

HF・GP視野検査の結果一例：正常視野と緑内障視野(右眼)

	正常	初期	中期	末期
其の一 HF視野検査 中心30度の視野を検査します。				
其の二 GP視野検査 HF視野検査と比べてより広範囲の検査が可能です。				
	中心よりも右側の黒いところはマリオット盲点と呼ばれる正常の方も見えない部分です。	鼻側または中心よりもやや周辺に見えない部分が出現します。ここでは視野の異常に気づかないことが多いです。	初期よりも見えない部分が徐々に広がります。片眼では見づらさに気づきますが、日常では両眼で生活しているため気づかない方もいます。	見えない部分が全体に広がり、両眼でも見えづらさ（暗く見える・物にぶつかるなど）を訴え、日常生活にも支障を来します。中心または周辺視野が残存しますが、このまま放置してしまうと最終的に失明に至ります。
イメージ像				

⚠ 緑内障の全ての方が同じ欠け方をするわけではありません。

おわりに

眼科の検査で疑問に思ったことや気になることがありましたら遠慮なく視能訓練士までご相談ください。これからも患者さまのためにスタッフ一同より良い医療が提供できるよう精一杯努めて参ります。

（※）緑内障について
緑内障は日本人の中途失明原因の上位となっています。
眼圧値が高い方に起こりやすいとされていますが、眼圧値が正常の方でも緑内障になる危険性があります（正常眼圧緑内障）。一度欠けた視野は元に戻ることができません。早期発見、早期治療のためには定期的な健康診断または眼科受診が大切です。

【文責 医療技術部　視能訓練課】